



特集

大雪災害を乗り越える

課題をこれからの防災対策に生かす

な時代背景や高齢化などから雪の影響を受けやすくなり、大きな混乱が生まれました。

県内の被害状況

人的被害・建物被害

今回の豪雪では、亡くなられた方12名、重軽傷113名、建物損壊123棟などの甚大な被害が発生しました。屋根の雪下ろし時の転落が多く見受けられ、65歳以上の高齢者が全体の約6割を占めました。

交通障害の状況

JR北陸本線や地域鉄道、路線バスなどの公共交通機関は、数日にわたり終日運休や部分運休が発生。北陸自動車道や中部縦貫自動車道も通行

止めとなり、国道8号では、坂井市からあわら市にかけて約1500台が長時間にわたり滞留しました。

交通網の麻痺により、嶺北

を中心に、学校や企業が休業となったほか、生活物資が不足するなど、県民生活はもちろん、経済活動全般が大きな打撃を受けました。

災害対策本部の対応

県では、2月6日に災害対策本部を設置。特別な対応として、道路管理者や鉄道・バス事業者、石油組合などに出席を求め、連携して除雪や公共交通機関の復旧、県外からの燃料供給などに全力で取り組みました。



災害対策本部で関係機関と情報を共有

交通障害を解消

国道8号については、陸上自衛隊に災害派遣要請を行い、スツク車両の救助など、早期の復旧を目指しました。県も迂回路を除雪するなどして、2月9日に車両の滞留を解消。生活道路については、除雪車用の燃料を提供したほか、長

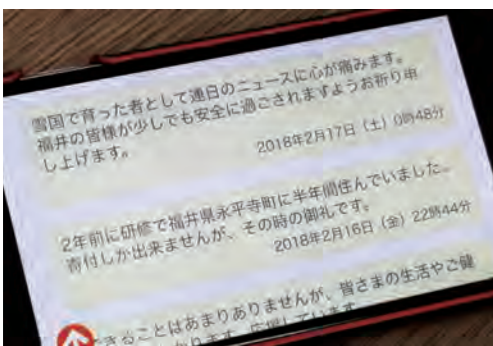
燃料不足を克服

不足したガソリンや灯油などを嶺北のスタンドに配送するため、県は経済産業省に対し、優先供給を要請。県外からの緊急輸送を受け、2月16日にはほぼすべてのスタンドで営業が再開されました。

みなさんの善意が力に

県民の皆さんの理解と協力により、各地で通学路や生活道路、高齢者住宅などの除雪が進みました。2月11日には、除雪ボランティアを募るセンターを開設し、県内外のボランティアの方々にも除雪に協力いただきました。

また同日、大雪支援のためのふるさと納税の募集を開始。県内の自治体へ3千万円を超える寄付と、「豪雪に負けないで」「がんばれ、福井県のみなさん」など、数多くの応援メッセージをいただきました。



多数の応援メッセージ

中小企業・農業の再建へ

中小企業については、損壊した社屋の修繕や、売り上げの減少による資金繰りなどの相談が寄せられています。

また、農業用ハウス900棟超が損壊したほか、ハウス内で栽培していた野菜が出荷できなくなるなど、深刻な影響が出ました。県では、被害を受けた中小企業・農業者の相談窓口を設置したほか、農業においては農業経営支援資金の貸付けを行うなど、早期の経営再建に向けた支援を行っています。今後、国の支援制度を利用するとともに、県独自の支援を検討し、被災した中小企業・農業者ができるだけ早く通常の操業・生産を再開できるように努めていきます。

福井の「元氣」を発信

観光への影響もあり、あわら温泉では宿泊キャンセルが1万件を超えました。また、越



大阪の百貨店での出向宣伝

前がにシーズンでにぎわうはずの越前海岸の旅館・民宿においても、宿泊キャンセルが発生しました。

現在、県内の主要な観光地は元氣な姿を取り戻しており、大雪から回復したことをPRするために、県では、ホームページやSNSで「福井は元氣です！」というメッセージを発信。

3月には、首都圏や関西圏で出向宣伝を行ったほか、観光物産展やフェアを開催し、元氣な姿をアピールしました。

国に支援を要請

大雪災害からの復旧に向け、2月21日に、知事が県議会議長、市町の首長とともに、石井国土交通大臣や野田総務大臣らと面会し、
・除排雪経費などに対する財政支援
・雪に強い国道8号の整備促進
・鉄道事業者の雪害対策の強化
・被災農業者や中小企業に対する支援
などを要請しました。

また、2月24日には、小此木内閣府防災担当大臣をはじめとする政府調査団が、3月5日には河野参議院災害対策特別委員長をはじめとする調査団が来県。国道8号や農業用ハウス倒壊現場などを視察しました。

小此木大臣は、関係省庁と連携し、政府一丸となって今回の事態解決に努めていくと述べました。

(被害状況や寄付額などは3月9日時点)

知事コラム



知事 西川 一誠

今回の豪雪により、多数の方が被害に遭われました。亡くなられた方のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

県では、高齢化が進む中での家屋の除雪と安全確保、公共交通機関の運行体制の強化、大雪時の迅速な通行規制の実施、県民生活に直接かわる食料・燃料の優先確保など様々な課題を調査し、その結果を今後の防災対策に役立てていきます。